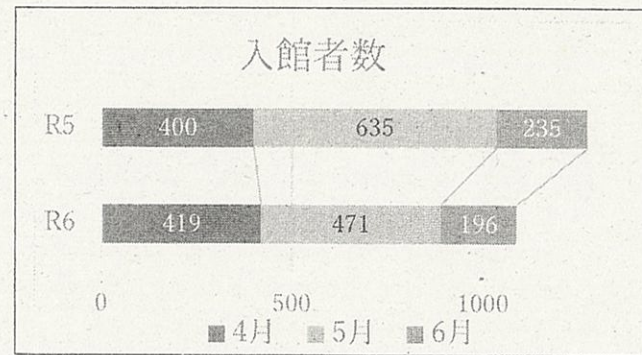




【1学期の図書室利用状況】

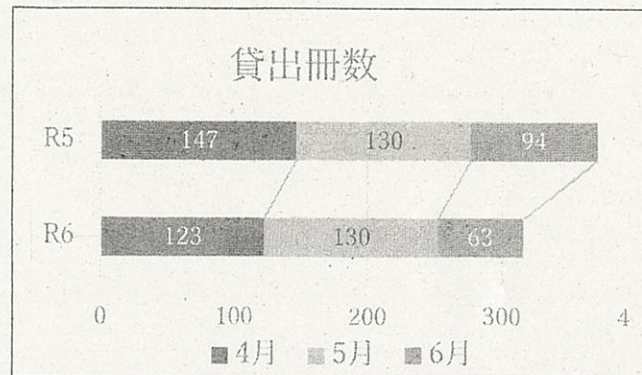
○入館者数

	R5	R6
4月	400	419
5月	635	471
6月	235	196



○貸出冊数

	R5	R6
4月	147	123
5月	130	130
6月	94	63



入館者数・貸出冊数ともに、令和5年1学期のデータを下回っていました。今後、図書委員・図書部員が広報活動をさらにおこない、図書室利用を呼びかけたいと思います。

図書部員のオススメ (今月、汐見さん) 重なりました...

「あの星が降る丘で、君とまた出会いたい。」

汐見夏衛 スターツ出版文庫

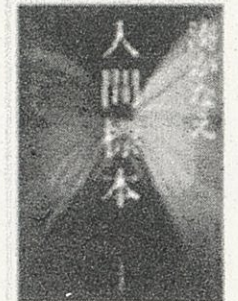


ある日の放課後、百合は彰と似た人物と出会う。その人物の名前は宮原涼。涼は百合が通う学校に転校してきた生徒だった。二人は時がたつにつれて仲が良くなっていく。ある日百合は涼が彰の生まれ変わりだと気づく。

皆さんは「死」という言葉を簡単に使っていませんか？今、夢を語れるのは当たり前のことじゃない。みんなと笑い合っているのは当たり前のことじゃない。だからこそ自分の大切な人、自分の隣にいる人を傷つけることがないようにしていきませんか？

「人間標本」 湊かなえ KADOKAWA

この本は、主人公の榊史郎がある日を境に人間が蝶に見えるようになり、その人間たちをもっとも美しい状態のまま標本にしたいという願望から始まります。美しいところも、汚いところも含めて、その人の魅力を標本という作品に生かす独特な表現方法がくせになりました。最後にはまさかの展開の連続で、なぞはすっきりするけど心はもやもやするという、湊さんらしいイヤミスでした。



「さよなら嘘つき人魚姫」 汐見夏衛 一迅社

どうでもいい嘘ばかりをつけて、周りの人にかまってもらおうとする「かまってちゃん」の水瀬水月。

誰とも喋らず親切も拒絶して、クラスで透明人間扱いされている「変人」の羽澄想。

二人は、誰にも知られていない悩みがあり、また死に憧れていた。そんな二人は、あるきっかけで一緒に過ごすようになる。

生きることの大切さ、家族との関わり方など今の私たちに大切なことが書かれた本です。ぜひ、読んでみてください。



夏休みの本の貸出しは

7/9(水) ~ 9/3(水) 返却日
最大5冊まで

借りることが出来ます



→裏面もあり

〈リクエスト〉切り取って図書委員へ預けるか図書室へ

記入者: _____ 年 組 _____

書名: _____

作者名: _____

出版社: _____

